

# 開催報告

令和5年度 北海道青少年育成大会（「少年の主張」全道大会）  
2023年9月8日（金） 北海道立道民活動センター（かでる2・7）／札幌市

「少年の主張」全道大会が4年ぶりに実開催！全道から約320名の関係者が参集

今年5月に新型コロナウイルスが5類に移行し、4年ぶりに制限なしでの開催となり、全道から約320名の青少年育成関係者が集いました。

午前中は、青少年の育成に功績のあった方々の各表彰式や、全道の地区代表15名の中学生による「少年の主張」全道大会が開催されました。

午後は、山崎夏生氏（審判応援団長）による基調講演の後、厚真町教育委員会の斉藤烈社会教育主事によるけん玉パフォーマンスを交えた活動発表があり、最後に「少年の主張」の結果発表・表彰等が行われ、4年ぶりの大会を締めくくりました。



## 北海道社会貢献賞、北海道青少年基金事業顕彰の表彰式

永きに渡り、青少年の健全育成活動にご尽力された10名に、北海道野澤子ども応援社会推進監から北海道社会貢献賞が贈られました。

優れた活動を展開する青少年団体の功績を讃え、どさんこ青少年オーケストラ協会（札幌市）に当協会竹谷会長より北海道青少年基金事業顕彰を贈呈しました。（7ページ参照）

また、表彰式に参加したどさんこ青少年オーケストラのコンサートマスターの水間凜さん（高校2年生）・半澤真菜さん（高校1年生）によるミニコンサートが開催され、会場に華やかな音色が響き渡りました。



## 活動発表

### 一 胆振東部地震での子どもの居場所「ハッピースターランド」等の活動を発表 一

厚真町教育委員会の斉藤烈社会教育主事から、胆振東部地震の被災2日後に、町の子どもの居場所と遊び場として「ハッピースターランド」を開設し、避難所生活の子どもの精神的な支えとなった活動事例を紹介いただきました。

また、ご自身の特技であるけん玉を活かして立ち上げた「厚真けん玉クラブ」について、クラブでの活動の様子や、様々な行事を通して地域の子どもからお年寄りまで町民の交流の場を設けるなど、誰でもできるけん玉によるコミュニティづくりについて、発表をいただきました。



## 基調講演

### 演題 「一途一心の野球道」

審判応援団長（元NPB審判技術指導員）  
やまざき なつお 山崎 夏生 氏



スポーツ新聞社での勤務を経てプロ野球（パシフィックリーグ）の審判員に転じた異色の経歴を持つ山崎さん。「プレイボール!!」と大きく宣言して講演が始まりました。

#### 扉をこじ開けたのは情熱

「審判になりたい」ではなく、「審判になる」と決意し、会社を辞めました。自ら退路を断って必死にトレーニングに打ち込み、現役審判に押し掛け入門して勉強しました。努力は報われるのです。直談判したリーグ会長から「何よりも仕事への情熱を感じた。頑張りなさい」契約を認められたのです。審判への扉をこじ開けたのは、情熱でした。

#### 神様のプレゼントをもらう

こんな大男ですが、僕はプレッシャーに弱く、本番では80%の力しか出せなかった。ならばどうするか、125%の力を付けたいのです。そのためには練習しかありません。何万球もボールを見ました。すると、審判の構えをして物を見れば、その幅がホームベースの幅より長いかわかるようになりました。たくさん練習した者に神様が与えるプレゼントを僕は貰うことができたのです。自分の力を発揮できる自信がいたのは、練習のおかげです。

#### ひたむきさが応援を呼ぶ

上手いかわからないことの原因は、ほとんど自分にあります。そ

れを認めてひたむきにやれば、応援してくれる人が必ず現れます。僕にも多くの挫折がありました。誤審でホームラン判定をした翌日、ファンからの罵声に心が折れそうになっても、「逃げてたまるか」とグラウンドに立ち、全身全霊を傾けて球を見る。その姿を見て応援してくれる人が僕には大勢いたんです。

#### 若い人達に伝えたいこと

大切なのは自分の定めたゴールに向かうことです。順番ではありません。報われるのは1/10かもしれないけど、それが9倍に膨れ上がるんです。自信をなくして下を向くことがあっても、情熱を失わずに前を向くんです。最後に寺山修司の言葉を贈ります。「振り向くな、振り向くな、後ろには夢はない。」

#### 「大変な力をもらいました」

公演後、参加者から次のような感想をいただきました。「山崎さんのお話には、大変な力をもらい、怠けた自分を反省するとともに、今日から胸を張って生きていきたいと感じました。」

「興味深いお話で1時間があっという間でした。人の所為にしない、情熱は確かに大切だと思います。」